クックフードル取付説明書（施工編）

LX90/HL

取り付け方法　（取り付けを始める前に、裏面掲載の付属品を確認してください。）

1 取り付け前の確認

（1）施工前の準備
1．裏面「安全編」の 安全上のご注意 や 取付時のご注意 などを良く読んで施工して下さい。
2．裏面「安全編」の最下段に記載されている付属品が全て揃っている事を確認して下さい。
※別売り部品を購入した際は一緒に確認して下さい。

注1）製品を取り扱う際は薄板の切り口などで手を切る恐れがある為がありますので、必ず厚手の手袋を着用して下さい。
注2）製品を取り付ける際は慎重に行い、傷・変形の無いように注意して下さい。

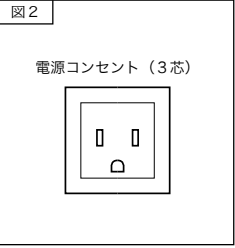
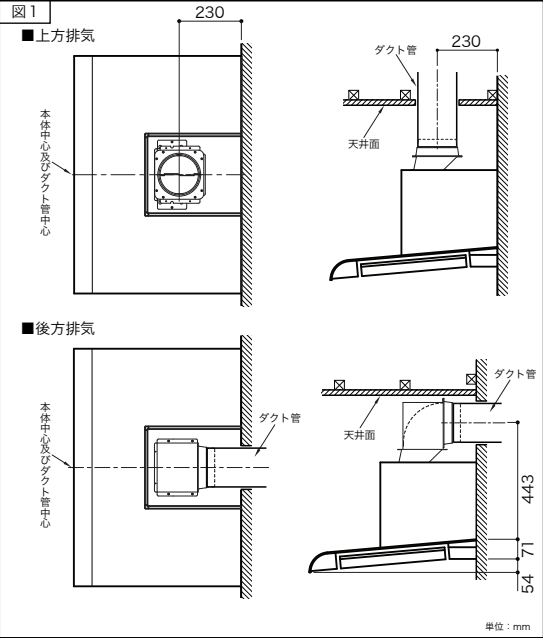
（2）取り付け壁面の確認
※取り付け壁面は、製品を支える強度が必要です。製品の重量を支持できる丈夫な場所に設置してください。
（製品重量：30Kg）

1．積層板張りの場合
板厚が20mm以上の場合は直接取り付けてください。
板厚が20mm以下の場合は、壁に補強材を埋め込んでください。
注）積層板張りの場合は、必ずフード本体と取り付け壁面の間に、9mm以上の不燃板を取り付けてください。
2．コンクリート・レンガ壁の場合
あらかじめ補強材を壁に埋め込んでおくか、付属のアンカープラグをご使用ください。
3．ＧＬ壁の場合
本体の取り付け位置にφ150mm 程の穴を開け、その穴にモルタルを積め込み平ゴテにて表面を石膏ボード面に仕上げ、翌日以降に付属のアンカープラグを使用して取り付けてください。
4．土壁の場合
補強材をあらかじめ柱などに固定し埋め込んでください。

（3）排気ダクト管の確認（図1）
1．上方排気及び後方排気
フード本体の中心の天井裏及びフード本体の中心の壁面にφ150mm のステンレス、又は、スパイラル管がきているか確認ください。

（4）電源コンセントの確認（図2）
1．コンセントは、専用のアース付３芯コンセント（JIS C 8303 2極差込接続機）を使用してください。

図1
■上方排気　■後方排気
単位：mm

図2
電源コンセント（3芯）

2製品の取り付け準備

（1）スミ出し
1．本体の中心位置を出す。
2．天井高及び使用される方の身長を考え、調理器具上面からフード下端までを80cmとし本体下端位置を出す。
※火災予防条例により隔離距離が80cm以上と定められています。
3．天井面及び壁面に、排気ダクト管・給気ダクト管を通す穴の中心を出す。

（2）天井面、壁面の穴開け
1．天井面及び壁面に、排気ダクト管（φ150 mm）を通す穴を開けます。

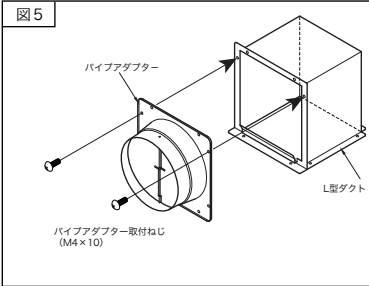
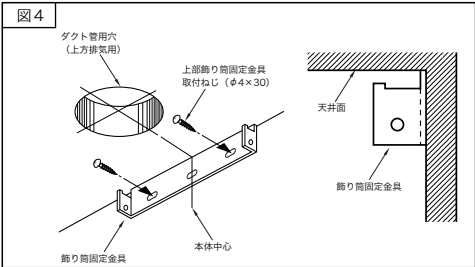
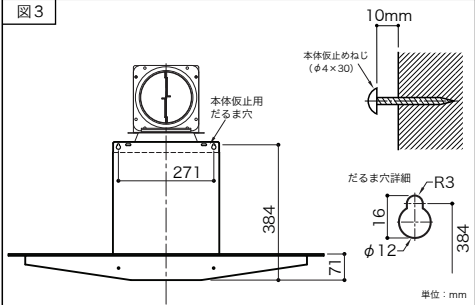
（3）本体仮止め用ねじの取り付け
1．本体仮止めねじ（φ4×30）を所定の位置に取り付けます。本体仮止めねじは壁面から10mmまで締め付けてください。（図3）

（4）飾り筒固定金具の取り付け
1．飾り筒固定金具の取り付けは、本体の中心と金具の中心をあわせて、付属のねじ（φ4×30）で壁面に固定してください。
※図のように飾り筒固定金具の上端を、天井面にぴったりとつけて固定すれば上部飾り筒上端と天井面との隙間を空ける事なく取り付ける事が出来ます。（図4）

（5）後方排気の場合
1．パイプアダプターの取り付け
別売部品のＬ型ダクトに 、パイプアダプター 又は 排気電動シャッターを取付けてください。（図5）

図3

図4

図5

3 本体及び飾り筒の取り付け

（1）準備
整流板の取り外し
1．左右のラッチ錠を引き出し整流板を手前に降ろします。（図6．7）
※この時、整流板が落下しないように両手でしっかりと支えて下さい。
2．整流板を持ち上げ、整流板吊具から整流板を取り外して下さい。（図8）

油受けの取り外し
1．油受け前面に取り付いている脱着ボタンを押すと油受けのロックが外れます。その後、油受けを手前に向かってまっすぐ引き抜いて下さい。（図9）

グリスフィルターの取り外し
1．ハンドルを持ちながらクリップキャッチを引き、フィルター自体を片側に押し込みつつ（図10-A）ハンドル側を本体から取り外して下さい。（図10-B）
※必ず油受けを外してからグリスフィルターを外して下さい。

（2）本体の取り付け
1．事前に取り付けた本体仮止めねじを、本体の仮止め用だるま穴に掛けて取り付けます。（図11）
※本体の端を持ち上げると笠部分が変形する可能性があります。
製品中央を持ち、端は支える程度にして下さい。
2．付属のねじ（φ４×30）2本にて本体を固定します。仮止めねじもしっかりと締め付けてください。（図11）

（3）排気ダクト管の接続
上方排気の場合
1．付属品の排気接続アダプターを本体に取り付けます。付属のねじ（M4×10）2本で取り付けます。（図12）
2．取り付けた排気接続アダプターの上に、パイプアダプター 又は 排気電動シャッターを付属のねじ（M４×10）４本にて固定します。（図12）
3．φ150 mm のダクト管（ステンレス又は、スパイラル管）の先端を、天井面のダクト穴に通してから本体のパイプアダプターの接続口までダクト管をおろして接続し、アルミテープで固定してください。

後方排気の場合
1．付属品の排気接続アダプターを本体に取り付けます。付属のねじ（M４×10）2本で取り付けます。（図13）
2．取り付けた排気接続アダプターに、前項で用意したＬ型ダクトを付属のねじ（M４×10）４本にて固定します。（図13）
3．φ150 mm のダクト管（ステンレス又は、スパイラル管）の先端を壁面のダクト穴に通し本体のパイプアダプター 又は 排気電動シャッターの接続口と接続し、アルミテープで固定してください。

※排気電動シャッター（VE１５０）を使用する場合は、付属の取付説明書を参考に接続してください。

図6
整流板　ラッチ錠　整流板吊具（※裏側）

図7
ラッチ錠

図8
整流板　整流板吊具

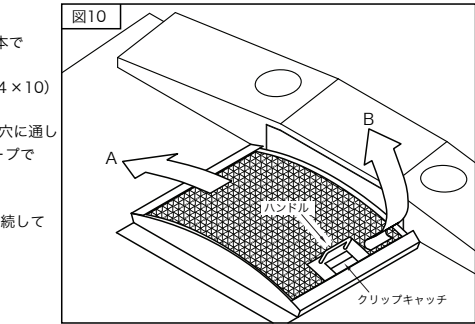
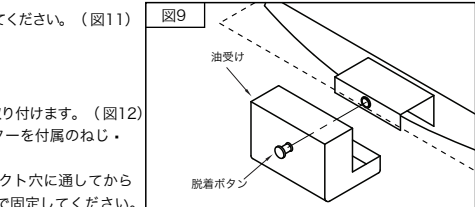
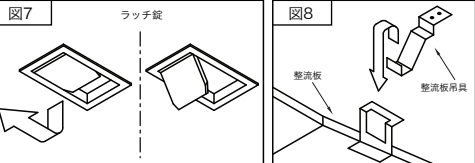
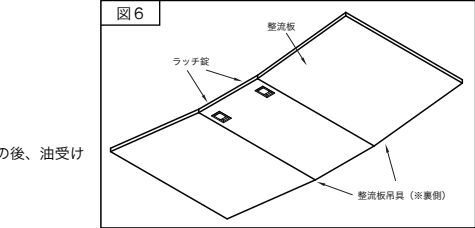
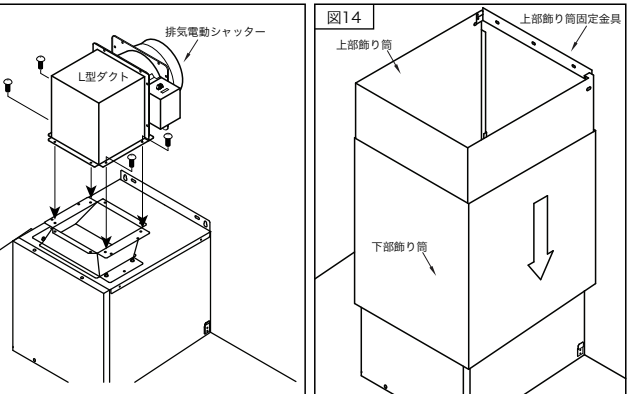
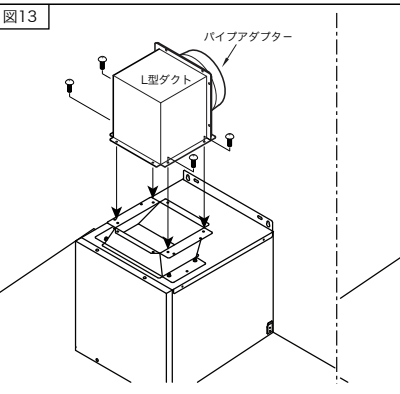
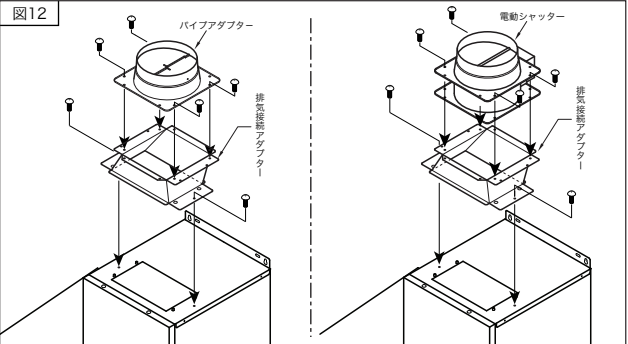
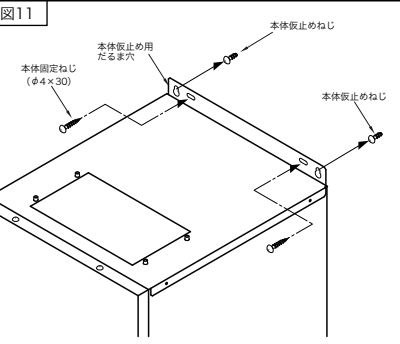
図9
油受け　脱着ボタン

図10

3 本体及び飾り筒の取り付け

図11

図12

図13　図14

（4）飾り筒の取り付け
1．上下部飾り筒を重ね合わせ、事前に取り付けた上部飾り筒固定金具に上部飾り筒を引っ掛けてください。（図15）
2．上部飾り筒を引っ掛けた状態で下部飾り筒をスライドさせ、本体の所定の位置へ降ろすように設置して下さい。（図14）
※この時、下部飾り筒の折り返しが下部飾り筒キャッチに納まるようにして下さい。（図16）
3．上部飾り筒と上部飾り筒固定金具を筒の外側から付属のねじ（M4×10）2本にて固定して下さい。（図17）
※飾り筒を取り付けた際に、飾り筒と天井面及び壁面の接触部にはコーキングをしないでください。ファンモータ等のメンテナンスができなくなります。

（5）本体の最終固定
1．ハロゲンボックスに固定されているフタを2本のねじを外し取り外します。（図18）
2．内部の配線を傷付けない様に、本体の最終固定を付属のねじ（φ４×30）2本にて行って下さい。（図18、19）
3．本体がしっかりと固定されたのを確認してフタを元の位置に戻し固定して下さい。
※ハロゲンボックス内へと進む配線は全てフタの配線通り穴へと納めて下さい。位置が悪い場合、フタの変形や配線が内部で断線するなどの恐れがあります。

（6）付属品の取り付け
グリスフィルターの取り付け
1．グリスフィルターのハンドルを持ちながらクリップキャッチを引き、フィルター自体を片側に押し込みつつハンドル側を本体に差し込んで下さい。（前項「グリスフィルターの取り外し」の逆（図10））

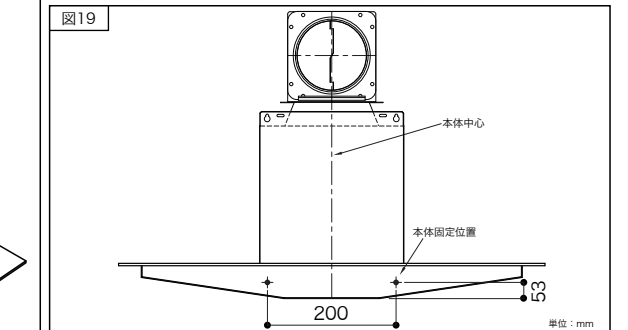
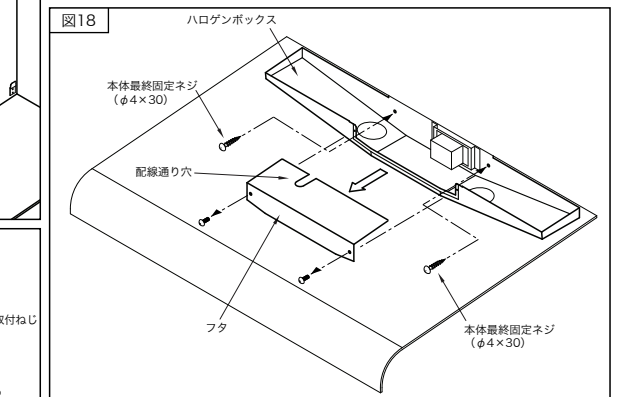
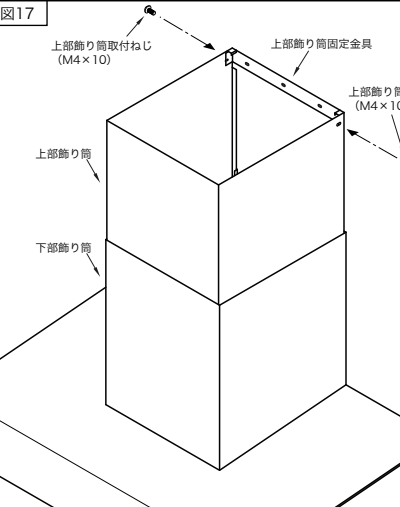
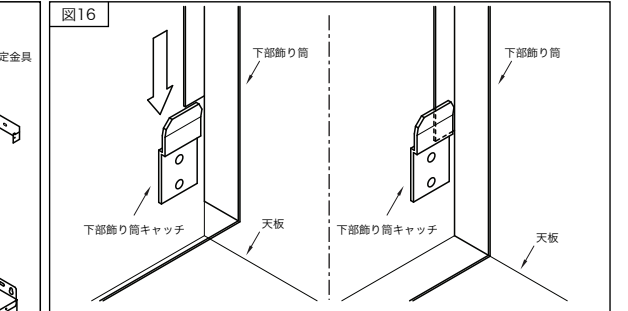
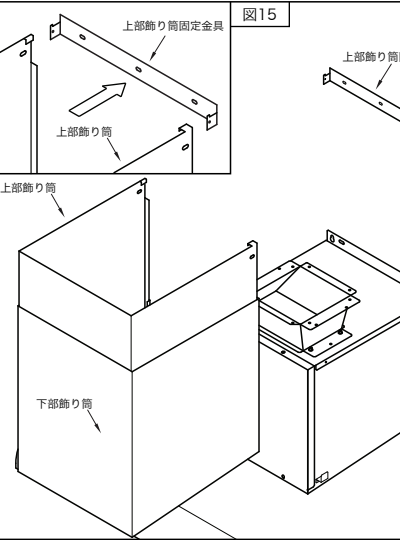
油受けの取り付け
1．油受けを前面からスライドさせるようにはめ込み、一番奥まで押し込みます。
2．油受けが奥に着いている状態で脱着ボタンを一回押すとロックされます。（前項「油受けの取り外し」の逆（図9））
※脱着ボタンを押した後、必ず油受けが完全に固定されている事を確認して下さい。

整流板の取り付け
1．手前にラッチ錠が来るように整流板を持ち、本体の整流板吊具に整流板を吊り下げます。（前項「整流板の取り外し」の逆（図8））
2．整流板を両手でしっかりと支えながらラッチ錠を引き、整流板手前側を本体に当たるまで持ち上げて下さい。
3．整流板が本体に当たった状態でラッチ錠を戻し、ゆっくりと手を降ろしながら整流板が本体に固定されている事を確認して下さい。
※ラッチ錠が上手く本体に取り付いていないと整流板が落下する原因になります。ラッチ錠を戻してもすぐに手を離さないで下さい。
※整流板を取り付けた後、軽く整流板を前後左右上下に動かして完全に固定されている事を確認して下さい。

図15

図16

図17　図18

図19
本体中心　本体固定位置　200　53　単位：mm

5 試運転

※運転時にファンの中に手や物を入れないでください。怪我・故障の恐れがあります。

（1）本体の操作を「取扱説明書」[ご使用のしかた]に従って正常に作動するか確認して下さい。
※排気電動シャッターを取り付けた場合、シャッターが開いてから運転を開始します。
その為、スイッチを入れてから約２～３秒後にファンが回転し始めますが故障ではありません。
（2）運転時、異常な騒音や振動が無いことを確認して下さい。
（3）屋外の排気口より、排気されているか確認して下さい。
（4）弊社製の排気電動シャッターを取り付けた場合は、本体スイッチと連動し開閉しているか確認して下さい。
（5）他社製の給気電動シャッターを取り付けた場合は、本体スイッチと連動し開閉しているか確認して下さい。
（6）取付上、施工上に発生した不具合でメンテナンスを依頼される場合、保障期間内であっても有料となりますのでご確認下さい。

※上記作業が終わりましたら、この取付説明書はお客様にお渡し下さい。

クックフードル取付説明書（安全編）

安全上のご注意 （必ずお守りください）

■この説明書は安全上、特に注意していただきたい内容についてとりあげたものです。この[安全上のご注意]をよくお読みのうえ製品を取り付けてください。
■具体的な取付方法については、取付説明書（施工編）をご覧になってください。

■ここに示した注意事項は、製品を安全に正しく取り付けて、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、「警告」「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。

⚠ 警 告：人が死亡または、重傷を負う可能性が想定される内容。
⚠ 注 意：人が傷害を負う可能性及び物的損害のみの発生が想定される内容。

■お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

- このような絵表示は、してはいけない【禁止】内容です。図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。
- この絵表示は、必ず実行していただく【強制】内容です。図の中や近傍に具体的な指示内容が描かれています。

絵表示の例	
	：左図の場合は、“分解禁止”が描かれています。
	：左図の場合は、“電源プラグをコンセントから抜いてください”が描かれています。

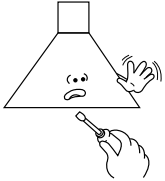
⚠ 警 告

●メタルラス張り、ワイヤラス張り、または金属板張りの木造の造営物に本体、金属製ダクトとメタルラス、ワイヤラス、金属板とが電気的に接触しないように取り付けること。
漏電した場合、発火したり感電することがあります。

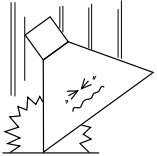
取付注意

●効率よく排気させるには、空気の取り入れ口（給気口）を設けること。とくに密閉された厨房には、ø150㎜以上の給気口を用意してください。（寒冷地では、電動シャッター付給気扇をご使用ください。）

取付注意

●修理技術者以外の人は、絶対に分解したり修理・改造は行わないこと。発火・感電したり、異常動作してけがをすることがあります。

分解・修理
改造禁止

⚠ 注 意

●本体の取り付け及び、部品の取り付けは十分強度のあるところを選んで確実に行なうこと。
落下によりけがをすることがあります。

取付注意

●交流100V以外では使用しないこと。
火災や感電の原因となります。

使用禁止

●運転中は、羽根の中に指や物を絶対に入れないこと。けがをすることがあります。

接触禁止

●電気工事は必ず電気工事店に依頼すること。電気設備技術基準や内線規定に従って安全確実に行なうこと。
誤った電気工事は感電や火災の恐れがあります。

取付注意

給気電動シャッター用ケーブルの接続 (他社製品の場合)

※排気用ファン（レンジフード）と給気電動シャッターを連動させるには、給気電動シャッター側のコードと、給気電動シャッター用ケーブルを接続してください。(接続方法は、下記の要領で行なってください。)

1．給気電動シャッターのコードと給気電動シャッター用ケーブルの接続
（1）給気電動シャッター用ケーブルの保護用コネクター側のケーブルを、ニッパ、ペンチ等で切断し、ケーブルの被覆をめくります。この時、ケーブルの被覆をめくる長さは、10mm程度にします。

（2）給気電動シャッターのコードと、給気電動シャッター用ケーブルとを絶縁キャップで、圧着して接続します。

注：給気電動シャッターのコード及び、給気電動シャッター用ケーブルの被覆をめくる長さは、絶縁キャップよりはみ出ない様にしてください。

2．試運転
※レンジフードの電源コードを仮設コンセントに差し込んで試運転を行い、下記の内容を確認ください。
（1）レンジフードスイッチの ON/OFFボタンを押して、レンジフードファン（排気ファン）と給気電動シャッターが連動して作動するか確認してください。

●レンジフードスイッチ（Ⅰ、Ⅱ、TOP）のどの位置でも、給気電動シャッターは作動します。又、給気電動シャッターは３Ａ以内のものをご使用ください。
●給気電動シャッター用ケーブルは、入力用電源コードではありませんので、給気電動シャッター以外には、ご使用にならないでください。負荷がかかり過ぎるとスイッチ本体が故障する危険があります。

※弊社製品の場合は「給気電動シャッター」取付説明書の取付方法を参考に接続してください。

取付け時のご注意

※排気工事をされる場合、建築基準法（同施工法）および消防法等の関連法規に合わせて施行ください。

1．レンジフードの取り付けは、建物の金属部（壁内ラス網等）と接触しないように、十分注意して工事してください。なお、本体の埋込みは、絶対にやめてください。壁内のラス網に漏洩電流がある場合、本体に流れてきます。
2．取り付け高さは、ガスレンジの真上80Cm以上になるようにしてください。低すぎると、お台所仕事のさまたげになったり、高熱による故障の原因にもなります。
3．レンジフード下部には、湯沸器を絶対に取り付けないでください。また横方向は50Cm以上離してください。湯沸器の真上は高熱になるため故障の原因となります。
4．ガスレンジ幅はレンジフードファンの幅以内のものをご使用ください。
5．非常に長いダクトあるいは極端に屈曲したダクトは排気効果をいちじるしく低下させたり、騒音が大きくなりますのでご注意ください。
6．レンジフードの重量は約30Kgです。取り付け前に取付部の強度をよく確かめてください。取付部の強度が弱いと落下したり、振動の原因となりますので、補強工事をしたのちに製品を取り付けてください。
7．室温が 40゜C以上になる場所、薬品を使う場所には取り付けないでください。
絶縁が悪くなり、感電する恐れがあります。またスイッチ部分やモーターなどがいたんだりすることがあります。
8．スイッチの改造等仕様を変更してのご使用はさけてください。
9．効率よく換気させるため、排気用ダクトの大きさ以上の空気取り入れ口を部屋の反対の位置に設けてください。とくに、寒冷地などの気密性の高い部屋で、自然排気型のストーブをご使用の時は、空気がストーブ排気口より逆流し危険な燃焼状態になる恐れがありますので、フード付きガラリなどにより、十分給気される配慮をしてください。
※当クックフードルは、給気電動シャッター用ケーブルがついております。
必要に応じてご使用ください。
10．部屋の中央で料理される場合は、捕集しきれませんので、台所の全体換気のために、他の換気扇と併用していただければ、よりすぐれた換気ができます。
11．取り付け後、天井、壁などに内装用接着剤や塗料が使用される場合がありますので、本体に保護材を被せてください。

製 品 寸 法 図

給気シャッター用ケーブル
電源コード 機外長800mm
230
630
898
だるま穴
511
384
215
271
本体固定位置
53
200
だるま穴詳細
R3
16
φ12
384
338
410
395
125
898
378
230
上方排気の場合
50
293
125
71
MIN=550〜MAX=900
630
378
後方排気の場合
100
50
293
125
MIN=680〜MAX=900
630

単位：mm

付 属 品

下部飾り筒（１個）
H=395mm

上部飾り筒（１個）
H=410mm

上部飾り筒固定金具（１個）

グリスフィルター（1枚）

排気接続アダプター（１個）

パイプアダプター（１個）
（逆風防止シャッター付）

ネジ（φ４×10）
予備×5本

ネジ（M4×10）
上部飾り筒取付用×２本・
パイプアダプター取付用×４本
排気接続アダプター取付用×２本・
予備×３本

ネジ（φ4×30）
本体仮止用×２本
本体固定用×２本
上部飾り筒固定金具取付用×２本
最終固定用×２本
予備×４本
（アンカープラグ付）

別 売 部 品

後方排気用L型ダクト
（品番：SLP150）

排気電動シャッター
（品番：VE150）

-DES012008LX90-